

1学期から夏季休業、2学期へ

七十日間の一学期が終わって一週間経ちました。

この一学期間は今から振り返っても、「長いようで短い」とは、決して感じることでできない期間でした。「短いようで長い」では足りず、「長いようで本当に長い」と実感する期間となりました。その要因は、小中の違い、北中ならではの特質、感染症・熱中症への配慮・・・等、様々な機会、欠かすことのできない期間であったことは間違いないことです。

北中ならではの特質・・・『日本一エコな学校』というキャッチフレーズを前面に、中京テレビ『キャッチー!』の生放送会場となりました。施設・設備の紹介はもとより、出演した代表生徒たちの最後まで持続した整った姿勢、堂々とした発言内容に感心しました。

また、生放送会場という大変貴重な場面に遭遇した全校生徒の感想からは、校舎への愛着、代表生徒の堂々とした姿への憧れ・尊敬等、日常ではなかなか実感することのできない思いが溢れていました。この夏休み中も県内・県外問わず、視察のために多くの方々が来校される予定です。開校四年目となった今も、全国から熱い視線が注がれているということです。

感染症・熱中症対策・・・『感染症の拡大』『第七波の真っ只中』という言葉では表現不足な状態となつています。どこまで増え続けるのかわからない状況です。東京では、更に新たな亜種への置き換わりが始まっているという報道もありました。この状況下でも、対策としてできることに変わりがありません。熱中症対策をしつつも、肅々とやるべきことをやっていくしかありません。そして、現状が早く落ち着き、終息に向かう新たな動きが出てくることを祈るのみです。

感染症拡大、新たな株への置き換わりの報道、と先行不安で暗いニュースばかりです。

でも一日は過ぎていきます。今、できること、やれることを明らかにして、実行に移していけるかどうか、この力こそが今を乗り越えていくために、とても大切であるように思います。

感染症対策で自粛せざるを得ない、行事が中止になつた、といった当初の計画がなくなつた時。その時間をどうするか、どう気持ち切り替えて取り組むか、という決める時です。一学期から夏季休業期間、二学期は繋がっています。夏季休業中の姿が、二学期に大きく反映します。夏季休業期間中もずっと目標をもち続けましょう！